



# NEWS

CHUKYO UNIVERSITY

For **D**oing our best!

2018.4.1 No.

# 15

## 特集Ⅰ アクティブな学びにつなげる教育実践

国際教養学部、総合政策学部、工学部、図書館

## 特集Ⅱ 大学の授業について知ろう!

授業の仕組み、シラバスの活用方法



海外課題研究の報告会

### 中京大学の FDとは

FDとは、授業内容・方法や広く大学の教育に係る活動を改善し向上させるための組織的な取り組み (Faculty Development) のことを意味します。

中京大学では、FDを“大学のすべての者の幸せのため”と位置づけ、それを目指して学生・教職員がベストを尽くすもの (For Doing our best) ととらえています。

## CONTENTS

### [特集Ⅰ] アクティブな学びにつなげる教育実践

- [国際教養学部] 海外課題研究と学生の学び ..... ②
- [総合政策学部] プロジェクト研究を通じた学びの実現 ..... ③
- [工学部] 卒業研究を通じた主体的な学び ..... ④
- [図書館] クリブサーチ × ラーニング・スクエア = アクティブ・ラーニング ..... ⑤

### [特集Ⅱ] 大学の授業について知ろう!

- 大学の授業ってどうなっているの? ..... ⑥
- 授業の履修にはシラバスを活用しよう! ..... ⑦

### TOPIC

- 授業改善のためのアンケート ..... ⑧

## 国際教養学部

### 海外課題研究と学生の学び

国際教養学部は、英語を含む外国語の高い運用能力と、様々な異文化に対する多角的な理解を通じて、多様な国々との相互理解と交流に寄与する人材を育成する学部です。そのために、英語に加えて、フランス語・スペイン語・ドイツ語・ロシア語・中国語という、世界を代表する5言語のうちの1つを学生が自ら選択し、専門的に学びます。また、「言語文化」「歴史文化」「思想文化」「国際社会」の4つのカテゴリーを設定し、幅広い知識と教養、優れた国際感覚と世界共通の倫理観を養うためのカリキュラムを設定しています。「海外課題研究」は、このような学部教育の根幹といえるプログラムであり、学生は通常2年次の秋学期を利用して、フランス・スペイン・ドイツ・ロシア・中国にある提携大学の語学コースに留学します。

海外課題研究は、学生の自発性を促す形で進められます。参加学生は、まず2年次春学期に「海外課題研究事前指導」という科目を履修し、留学に必要な実践的語学力を高めながら、ビザ取得や入学申請などの手続きを進めます。また、留学が単なる観光に終わらないように、留学前の語学力の自己評価と留学中の語学学習の目標設定、留学先の現地事情・文化や歴史に関する研究テーマ設定などを、「海外課題研究計画書」としてまとめます。留学中はホーム・ステイまたは学生寮で生活をします。午前中は語学コースの授業で学び、午後は、選択授業に出席してさらに語学力を磨いたり、課外プログラムやイベントに参加して現地社会に対する理解を深めたりするなど、自分の目標や関心に応じた生活をします。また、ホスト・ファミリーや現地でできた友人との議論や街頭でのインタビュー、現地メディアの分析などを通じて、各自の研究を進めます。帰国後は、留学後の語学力についての自己評価や研究成果をまとめ、「海外課題研究報告書」として提出します。そして「海外課題研究報告会」において自分の研究成果を互いに発表し、さらに学生と教員の投票により優秀者を表彰しています。

「海外課題研究」は、参加学生のその後の学びや成長に様々な影響を与えています。例えば、1人暮らしや海外滞在の経験がなかった学生もいますが、異文化の中で生活していくことで、語学力だけでなく、自発性やコミュニケーション力も身につくことが多いようです。また、更なる留学へ挑戦する、進路希望が明確になる、海外課題研究が卒業論文のテーマに反映される、などの影響もあります。卒業時に実施しているアンケートからも、参加学生の多くが、本学部での学びによって、選択言語及び英語の能力が身についた、異文化に対する理解が深まった、言語や文化の多様性と普遍性の両方を認識し、国際交流の場で活かすことができるようになったと回答しています。このように「海外課題研究」は、言語能力のみならず、グローバル化が進む今日の世界を生きていく上での重要な知識や価値観、理解力などを養うための、本学部の中心的なプログラムです。



課外プログラムに参加(スペイン)

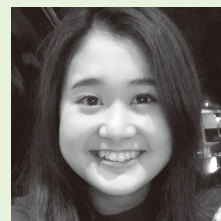


海外課題研究報告会の様子

#### 学生の声

私は4カ月間フランスへ語学留学に行きました。最初は授業に全くついて行けませんでした。ホストファミリーやクラスメイトと積極的に話す事を常に心がけました。また私は留学に行く前、フランスの広場について日本で研究していたため、留学中も留学先の地方の広場を研究するつもりで計画書を書きました。しかし、私はホストファミリーの影響でキリスト教に興味を持ちました。その結果、帰国後の研究報告会では研究テーマを広場からキリスト生誕群像に変更し発表しました。このテーマは留学したからこそ発見する事が出来たものです。また4カ月間で様々な国籍の友達ができ、どんな状況でも自分らしくいる事の大切さに気づき、自信もつきました。今後は広場の研究の再開と共に、キリスト教についても引き続き研究していきたいと思っています。またこの秋から交換留学制度を利用し、グルノーブル大学に留学します。語学留学の経験を活かして、より専門的な勉強をしていきたいです。

(国際教養学部3年 奥村有里子)





# 総合政策学部

## プロジェクト研究を通じた学びの実現



グループディスカッションの様子

総合政策学部で最も重要かつ学生がアクティブに取り組む科目は何かと問われれば、2年次から履修可能な「プロジェクト研究(P研)」であることは間違いありません。このP研は、一般的にはゼミナールと呼ばれるものにあたるのですが、通常のゼミナールが単に少人数講義であるのに対し、総合政策学部のP研は学生の能動的参加を前提にした科目になっています。そのため、このP研では原則、グループディスカッションやディベート、グループワーク、プレゼンを中心に進めるということが教員の間で共通認識として持たれています。

総合政策学部には政治学、法学、経営学、経済学などを専門とする多彩な教員が在籍していますので、どのP研を履修するのかを考えてもらうために、2017年度より1年次必修科目の「総合政策概論」という科目を、次年度のP研を担当する予定の教員全員によるオムニバス方式の授業にしました。ここで1年生はP研担当の全教員の講義を受け、どの教員・内容が自分に適しているかを考えてもらうわけです。表1は、2017年度の総合政策概論の講義シラバスからの抜粋です。いかに多彩な内容の講義であるかをご理解いただけることでしょう。

政治学から考える政策	国際社会と法	労働政策と労務政策
政策法務	日本行政論	簿記・会計と「政策」
居住福祉	マーケティングと商品企画	ブランドマネジメント
ベンチャービジネスとは何か	国際社会の現状と課題	政策とは何か
経済学から考える政策	ビジネス政策と公共政策の融合	

表1 2017年度総合政策概論授業予定表

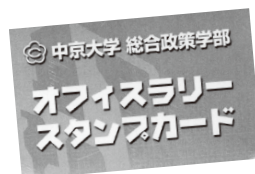


テレビ愛知の取材を受ける坂田P研生

では、総合政策概論を受講した学生がどのようにしてP研を選ぶのかというと、「オフィスラリー®」という、総合政策学部独自の仕組みがあります。オフィスラリーとは、どのP研が自分に適しているのかを見定めってもらうために、春学期と秋学期で最低5回、教員の研究室を訪問する仕組みで、この取り組みは中日新聞や朝日新聞に掲載されたこともあります。

オフィスラリーと選考を経て無事にP研に所属することになった学生は、そこから3年間、ひたすら能動的な活動に取り組めます。例えば、原稿を書いている私(坂田隆文副学部長)のP研生ですと、春休み期間中にも井村屋、富士通、中日ドラゴンズ、博物館明治村等の企業に対する企画提案活動を行いますし、つい先日、「東三河ビジネスプランコンテスト」で企業賞を受賞した学生もいます。私のP研はマーケティングや商品企画がテーマですので、2・3年生でチームを組んでリアルな企業へ提案を行うことで、チームワークや論理的思考力、コミュニケーション能力など、社会に出た後に企業で求められる能力を育成しています。

また、P研によっては他大学との勉強会が開かれたり、企業・行政施設へ積極的に訪問しているところもあります。「学生の能動的な学びに限界などない」というのが、総合政策学部のP研の根底にある考え方なのかもしれません。



中日ドラゴンズ球団職員にプレゼンする坂田P研生

### 学生の声

私はオフィスラリーを通して、自分に合った頑張れるプロジェクト研究を選択することができました。初めは、まだ何も知らない中での研究室訪問は少し大変ではないかと考えていましたが、実際は半年かけて直接先生方とお話しをした後にP研を選択することができたため、先生方の考えやP研の取り組みを知ることができました。

そのP研選択の場であるオフィスラリーに真剣に取り組んだことで、私は自分を成長させる良いP研、良い先生に出会うことができました。P研が決まってからは同期の皆とドラゴンズや明治村への商品提案を行っています。アイデアを何百も出したり論理的に説明するのはとても難しいですが、仲間がいるから頑張れるということを感じています。

このようにそれぞれの生活や頑張りたいことに合わせて、3年間活動していくP研を選択するためにも、そのP研や先生のことなどを何も知らずに選択するのではなく、実際にお会いして深く話をお聞きしたうえで選択することが可能なオフィスラリーという制度があって本当に良かったです。

(総合政策学部2年 伊藤舞)



# 工学部

## 卒業研究を通じた主体的な学び

工学部においては卒業研究が必修科目です。2年秋セメスタまたは3年春セメスタから各学生が研究室に配属され、各研究室の専門分野に従って卒業研究を実施するために必要な基礎を学び始めます。専門分野の力をつけ、最新の動向を調査し、魅力的な研究課題を設定して研究に取り掛かります。

情報工学科目加田研究室では、学生たちが人前で話すことに慣れ、説明する力をつけ、研究仲間を作るきっかけとなるように、道満研究室と共同で学生教育を実施しています。具体的には、3年生は研究室に配属されたばかりの2年生に画像処理の基礎を教え、4年生や大学院生はパターン認識に関する自主勉強会（最近だとディーラーニングの勉強会）を開催するなどです。研究だけでなく、学生間の交流を促す各種イベントも学生主体で実施しています。同級生との議論だけでなく下級生や上級生に教え教えられる環境がチームワークをつくり、研究力や社会人基礎力の向上につながっています。



研究活動の様子

卒業研究は、個々の学生と教員が一緒になって未解決な問題を見つけ、その問題を解決する方法を考えるプロジェクト型の活動です。目加田研究室では、医用画像や古文書画像を認識理解するためのディーラーニングに関する研究や、アスリートの動きを計測する映像処理技術に関する研究など、学生の興味や希望に応じて研究テーマが決められています。研究室では、学生が自分自身や仲間と考えておこなった方法の説明、実験結果に基づき得られた成果の説明、方法と結果の良し悪しに関する厳しい議論が毎週のように繰り返され、次第にまとまりのある研究が作り上げられます。2年半の研究室活動の総まとめとして、2017年1月下旬に道満研究室と村田研究室とで3研究室合同卒業研究発表会を実施しました。発表会では、合わせて20件弱の研究発表と質疑応答がなされました。4年生は具体的な研究を始めてから一年以上にわたる成果を自分の言葉で発表し、厳しい指摘や予想外の質問に悪戦苦闘しました。時間超過や機材トラブルなど、十分に練習したつもりでも想定外のことが起きることを実感していました。また、2、3年生にとって発表内容は難解であっても1、2年後の自分の姿を重ね合わせて真剣に聴講し、発表内容に関して素直な質問を投げかけるなど、やはり十二分に頭を使った一日となりました。そんな学生たちが発表会に前向きに取り組むための一助として、優秀発表者を参加者全員の投票によって決めています。研究室で1番を取るには、研究内容とその完成度だけでなく発表の上手さも必要です。自分の研究を十分理解して他研究室の学生に分かるように説明できた学生が受賞する傾向にあります。指導教員を含めた研究仲間とのアクティブな議論によって、良いアイデアを発見し、実験結果を自分で解釈する力を身につけた学生が今年も多数いました。



優秀発表者とその指導教員

卒業研究は、各学生が4年間で最も時間と労力を割く授業で、学生も教員も一番力が入り成長する工学部の活力源なのです。

### 学生の声

私が現在の研究テーマについて本格的に取り組み始めたのは、4年の春からです。道満研究室では3年の秋に卒業研究のテーマが確定するため、私のスタートはかなり遅いものでした。既に一定の研究成果を出している学生に追いつくため、誰よりも朝早く研究室のPCで研究のためのプログラミングに取り組み始め、実験はときには深夜まで続けました。講義以外の時間をほとんど研究に費やし、疑問に思ったところは納得できるまで先生と議論を重ねました。また、学生同士でも意見し合うことで更に研究への理解を深めるとともに、他人に説明する力を磨きました。

この1年間の努力が実り、卒業研究発表会では優秀賞を頂くことができ、私にとって大きな自信となりました。同時に、想定していた質問であっても焦って満足に答えられず、発表時間も超過するなど、自分の未熟さも痛感しました。

今年度からは大学院生として引き続きこの研究室に在籍し、自分の研究を突き詰めるだけでなく、後輩の指導を通じて説明する力を更に磨いていきたいと考えています。まだ私には学びたいことが山程あるのです。

(工学研究科情報工学専攻 修士1年 服部 竜実)





# 図書館

## クリブサーチ × ラーニング・スクエア = アクティブ・ラーニング

この春、“クリブサーチ”がユーザーインターフェースを一新、リニューアルされました!今回は学生の皆さんが自律的な学修を進めるときに、クリブサーチやラーニング・スクエアなどの図書館サービスをどのように活用できるのか紹介します。

### クリブサーチ



“クリブサーチ”はディスカバリーサービスを提供するための検索システムです。図書館の検索システムといえば、OPAC(Online Public Access Catalogue)が代表格ですが、電子ジャーナル等を活用するために出版社や学会のウェブサイトの検索を可能とするのがディスカバリーサービスです。定期購読している電子ジャーナルだけでなく無料のオープンアクセスジャーナルも検索対象です。

インターネットには無料で手に入る情報がたくさんあるので、調べものにGoogleなどを使わない人はいないでしょう。ところで、Googleはどこから情報を集めてくるのでしょうか?それは信頼できる情報ですか?表示される順番はどのように決めるの?わからないことが多いですね。集めた情報をレポートや研究発表にまとめるには悩ましい問題です。クリブサーチもGoogleとほとんど同じ仕組みですが、図書館が情報源をしっかり管理しているから安心です。思い浮かんだキーワードで自由に検索するうちに「自分が知りたかったのはこれだった」と気付く、それがディスカバリー(発見)です。また、検索結果を最後まで見る人はまれですから、表示順は重要です。クリブサーチは表示順の基準を選択できます。(左図①)さらに、資料の形態や発行年、言語などで絞り込むことも簡単です。(左図②)

電子資料を使ってレポートなどを書くときには情報の典拠を示さなければなりませんから文献管理ツールを使う人も多いと思います。クリブサーチには検索結果の書誌情報をエクスポート(出力)してくれる機能があります。文献管理ツールなどの活用法は、ラーニング・アドバイザー(※)に相談しましょう。

クリブサーチはどこからでも検索でき、環境に応じて表示が最適化されるのでスマホやタブレットでも見やすくなりました。しかし、電子ジャーナルを読むためにはキャンパスネットワークに接続する必要があったので、図書館と出版社等が取り決めを交わして中京大学の認証サーバーで電子ジャーナルにサインインできるようにしました。まだ、一部の出版社ですがこれから増やしていく計画です。

※論文の書き方や調査研究の方法等を学生に指導する大学院生のこと

### ラーニング・スクエア

グループディスカッションやプレゼンの練習ならラーニング・スクエアを活用してください。使い方は自由で予約もいりません。備え付けのテーブルやホワイトボードのレイアウトも、使い方に合わせて変更できます。ラーニング・スクエアは中京大学の“アクティブ・ラーニング・スペース”として名古屋図書館と豊田図書館に設置されました。もちろんWiFi環境は万全、図書館のカウンターでノートPCやプロジェクターを貸し出しています。レポート・ライティングやプレゼン方法の疑問・質問にはラーニング・アドバイザー(大学院生)がやさしく応じてくれますから気軽に相談してください。

図書館ではアクティブ・ラーニングを深化させるために、学生の皆さんが図書館運営に参画する、“学生協働”を推進しています。昨年度は企画展示、推薦本紹介、学生選書ツアー、ラーニング・アドバイザー講座、スタンプラリー、館内ゲームなどの企画に参加してもらいました。意見箱やSNS等による利用者の“生の声”を取り込みながら学修を支援していますが、“学生協働”で直接参加するのが早道。次は、あなたの番です。私たちを取り巻く情報環境はこれからも変化し続けるでしょう。クリブサーチやラーニング・スクエアを上手に活用して“生涯に亘って学び続ける力”を身につけること。それもアクティブ・ラーニングのひとつだと思います。



「レポートの書き方」を講演するアドバイザー



体育会クラブ員による戦略ミーティング

# 大学の授業ってどうなっているの？

大学の授業の仕組み

毎日ALBOをチェック

## 大学のカリキュラム※1

大学のカリキュラムは、全学共通科目と、学部固有科目から構成されています。全学共通科目の履修を通じて総合的な知識を身につけるとともに、論理的思考力とコミュニケーション能力を磨きましょう。学部固有科目では専門的な知識や技術、課題の発見から解決方法までを身につけます。それぞれの学部・学科(専攻)の教育研究上の目的が学生便覧に記載していますので、まずはその目的を理解しましょう。

## 授業の選び方

大学の授業は、必修科目※2、選択必修科目、選択科目の3つに分類することができます。まずは学生便覧でカリキュラムをしっかり理解しましょう。次に、自分が履修すべき授業は事前にシラバスで内容をチェックしましょう。選択科目はたくさんの授業の中から興味のある科目を履修することができます。授業を選ぶときはシラバスをよく読んで、自分が身につけたい分野の授業を選択しましょう。また、学科目時間割表も忘れずに確認しましょう。

## 授業を選ぶ上で最低限必要なアイテム

学生便覧、学科目時間割表、シラバス。これらは大学ホームページで参照します。

大学の授業って高校の授業とどう違うのかな？



大学の授業は基本的には自分で4年間の履修計画を立ててどの授業を受けるか決めるんだよ。



まず必修科目を取らないといけないんですね！でも選択必修や選択科目は？内容もわからないし…



大丈夫。そんなときのために大学にはシラバスがあるんだよ。



シラバスってどんなことが書いてあるのかな？なんか難しそう…



ではシラバスがどんなものであるか見てみよう。次のページがシラバスの具体例だよ。



### POINT1

**まずは学生便覧を確認しよう！**  
どの年次にどの科目を受けられるのか、学生便覧の科目一覧表のページに記載されています。

不安・疑問を放置しない

### POINT2

**自分の将来や興味に関係ある科目を見つけよう！**  
大学ではセメスター※3ごとに履修できる単位数が決まっています(履修登録制限単位)。必修科目を確認した後は、選択必修科目や興味のある科目を探し、制限単位の範囲内で履修科目を決めましょう。資格取得に必要な科目など、履修登録制限単位に含まれない科目もあります。

### POINT3

**授業内容はシラバスで確認しよう！**  
科目の授業内容はシラバスに書いてあり、パソコンを使用して大学のホームページで確認できます。詳しくは学生便覧の「大学からのお知らせ」ページを確認してください。わからない時には教務課で質問してください。

#### 用語解説

※1 **カリキュラム (教育課程)**  
教育目標を達成するために、学修段階に応じて編成した4年間にわたる教育内容の計画のこと

※2 **必修科目**  
卒業するために必ず修得しなければならない科目

※3 **セメスター**  
1年を春学期と秋学期に分け、各学期ごとに単位認定を行う制度のこと

教務課職員を上手に頼ろう！

教務課職員からのメッセージ

大学には、主役である学生のみならずに加え、教員と呼ばれる授業を教える立場の人、職員と呼ばれる大学生活を支援する立場の人が存在します。その中で私たち教務課職員は、学生のみならずの学修を支援する立場にあります。

みなさんが大学で学修する上でまず行うことは、自分オリジナルの時間割作成です。大学の時間割は、各自が受ける科目を選び、作り上げていきます。わからないことがあれば積極的に教務課に来て相談してください。大学で授業(学び)を充実させる上でも、私たち職員を活用してください。

# 授業の履修にはシラバスを活用しよう!

～シラバスの見方や活用法を解説～

シラバスとは？

授業科目について、授業概要や授業方法、評価基準などが記載されているものです。履修登録をする際にどの授業を履修するのかが決める重要な資料となります。

## シラバスの概要 (Webシラバス版)

### 授業方法

どのように授業を展開するのか書いてあるよ。講義形式などを確認しよう。

### 質問への対応

授業に関する質問を、いつ、どこで、どのように受け付けるのかわかるよ。ここで確認しよう。

### 授業計画

授業の各回で何を学修するのかあらかじめわかるよ。予習する手がかりにしよう。

### 履修者へのコメント

授業を履修する上での注意事項やアドバイスが書いてあるよ。

The screenshot shows the MaNaBo syllabus page for the course 'Introduction to Chukyo University'. The page includes a header with navigation links, a title bar, and a main content area with a table of syllabus details. The table lists course information, objectives, learning outcomes, methods, evaluation criteria, and a detailed lesson plan. Callout boxes point to specific parts of the page: '授業方法' points to the '授業方法' field; '質問への対応' points to the '質問への対応' field; '授業計画' points to the '授業計画' table; '履修者へのコメント' points to the '履修者へのコメント' field; '事前事後学習' points to the '事前事後学習' field; '学修到達目標' points to the '学修到達目標' field; and '成績評価方法・基準' points to the '成績評価方法・基準' field.

科目名	開講年次	単位
中京大学を知る	1～4年次春学期(1・3・5・7セメスター)	2

学修到達目標
<ul style="list-style-type: none"> <li>中京大学の学生としての意識を高め、「校訓」、「建学の精神とその四大綱」をふまえて、本学の理念と歴史を学び、説明できるようになる。</li> <li>本学の歴史を日本の歴史の中で位置付け、他大学と比較して本学の現状を評価し、中京大学の特性を説明できるようになる。</li> </ul>

成績評価方法・基準
<ul style="list-style-type: none"> <li>毎回の講義レポートを重視する 70%</li> <li>定期試験のかわりに課題レポートを課す 30%</li> </ul>

No.	項目	内容
1	授業ガイダンス	「中京大学を知る」で何を学ぶのか、中京大学の特性とは
2	大学とは	「大学の使命・目的・歴史、世界と日本の大学、中京大学」、ゲストスピーカー・長滝祥司(国際教養学部教授)
3	開学前史 ①	学園創立・中京商業学校開校のころ、100年前の中京名古屋、中京経済圏の成立と開校の背景
4	開学前史 ②	学園創立者の生きた時代と校訓、「学園創立者の人物像と校訓」、ゲストスピーカー・梅村清英(総長・理事長)
5	開学前史 ③	中京商業学校の歩み、戦中・戦後の中京名古屋、新制中京商業高校と短大開学のころ
6	中京大学の歩み ①	大学開学者の生きた時代と建学の精神、「大学開学者の人物像と建学の精神」、ゲストスピーカー・梅村清英(総長・理事長)
7	中京大学の歩み ②	1955～65年の経済・社会と中京大学、2学部の時代
8	中京大学の歩み ③	1966年以降の経済・社会と中京大学、4学部の時代
9	中京大学の歩み ④	スポーツ史からみた中京大学、「中京大学とオリンピック選手」、ゲストスピーカー・栗田真子(スポーツ科学部教授)
10	中京大学の歩み ⑤	1986年以降の経済・社会と中京大学、総合大学の時代
11	中京大学の歩み ⑥	2000年以降の経済・社会と中京大学、改革の時代
12	中京大学の現状	日本の大学と中京大学の今、現代的課題への取り組み、「男女共同参画とキャンパス・ハラズメント」、ゲストスピーカー・園間孝(国際教養学部教授)
13	中京大学の現状	日本の大学と中京大学の今、学術・研究の観点からみた特性、「研究からみた中京大学の特色」、ゲストスピーカー・桑村監生(学長補佐)
14	中京大学の将来	日本の大学と中京大学の将来、学園創立100周年、大学開学70周年に因って、「ミュージアムと中京大学」、ゲストスピーカー・亀井哲也(現代社会学部教授)
15	中京大学の特性	歴史からみた中京大学の特性を考える、「今、大学に求められていること。今、中京大学が目指していること」、ゲストスピーカー・安村仁志(学長)

### 学修到達目標

この授業を履修すると、どのようなことが身につくかを確認できるよ。

### 成績評価方法・基準

どのように成績評価をつけるのか、課題・試験の成績への反映比率などがわかるよ。

### 事前事後学習

授業の予習や復習に関することが書いてあるよ。

### 教務課職員からのアドバイス

シラバスは授業の説明書のようなものです。卒業要件や自分の興味・関心に基づいて科目を選択し、しっかり内容を確認して、時間割を組み立てる上での参考にしてください。教務課では、履修相談も受け付けますよ！なお、シラバスは以下より閲覧可能です。履修登録前に必ずCHECKしましょう。

中京大学HP→「在学生・教職員」(右上)→「在学生専用」の「シラバス(学部)」  
<https://manabo.cnc.chukyo-u.ac.jp/addon/syllabus> QRコードはコチラ→





# TOPIC

## 授業改善のためのアンケート

### 授業改善のためのアンケート

中京大学では、本学が提供するカリキュラムや授業等の学びの機会が、学生のみなさんにとってより良いものとなるよう、様々な教育改善に関する活動を行っており、全学的な取り組みのひとつに「**授業改善のためのアンケート**」の存在があります。このアンケートは、毎年度 春学期と秋学期に1回ずつ実施し、その結果から授業に対する学生の満足度や意見を知ること、授業改善に結びつけていく努力をしています。2018年度からはさらなる授業改善に向けて、アンケートをリニューアルします。

また、授業アンケートの結果と、結果に対する教員のコメントを閲覧可能とすることで、全学的な共有化を図っています。ぜひとも科目履修に役立ててみてください。

### 授業アンケートのプロセス



授業改善のためのアンケートを実施 ※各学期の第13～14週

授業アンケートを集計、結果を授業担当者へフィードバック

授業担当者はアンケート結果をもとに改善に向けたコメントを作成

アンケート結果と授業担当者のコメントを学内閲覧システムにて公開

※自分が履修した以外の科目の情報も見ることができます

学生

アンケート結果と教員コメントをもとに、科目履修の参考にする

教員

アンケート結果をもとに、担当科目の授業改善に結びつけていく

本学では、授業環境や学内環境の改善に向けて、学生のみなさんの貴重な意見を集約し、今後の環境整備等の参考資料として活用することを目的に「**授業環境・学内環境に関するアンケート**」も同時に実施しています。具体的には、教育支援システム、教室の照明、空調、机、Wi-Fi環境、休憩スペース、学生食堂、トイレなどがその対象です。学生たちから届いた声は学内で公開するとともに、環境整備や計画策定に役立てています。



発行: 中京大学 教育推進センター 〒466-8666 名古屋市昭和区八事本町101-2

Email: [fd-office@mng.chukyo-u.ac.jp](mailto:fd-office@mng.chukyo-u.ac.jp) URL: <http://www.chukyo-u.ac.jp/information/fd/>